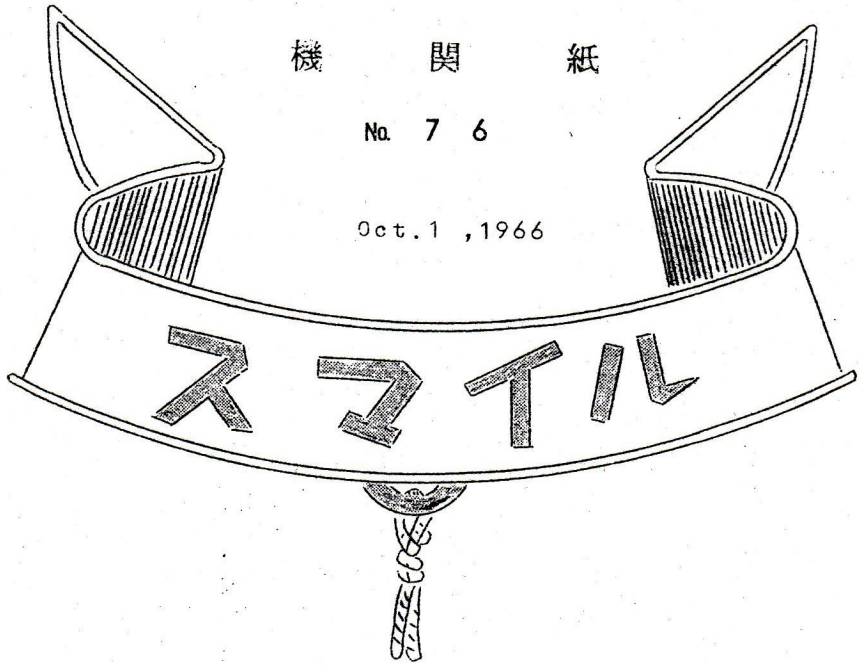


ボーイスカウト東京第四団

機 関 紙

No. 7 6

Oct. 1, 1966



キ ャ ン プ の こ と

一 組 三 島 完 治

ぼくが、カブたいに、はいつてから二回めのキャンプです。電車にのって、あつというまにつきました。

ユースホステルまでの道は、だんだん山へ、はいつて行くので砂けむりがたちました。二階にあがってみると、りょうがわは、ベットで、つくえがありません。きよさととちがって、つくえがないので、どうやって、いろいろなことをするのかとおもいました。でも、くふうすれば、べつになんとかなるものです。

ことし、ぼくは、食事のかかりをやりました。けっこうおもしろいとおもいました。

とくに、ぼくにとつていちばんおもしろかったことは、広い庭でクチクスイライをやったことです。ぼくは、思いっきり走りまわりました。ぼくは、こういうときがいちばん、しあわせです。ぼくにも二つあります。一つめは、こむろ山にのぼったこと。はげしいジャングルのような、けわしい道です。ぼくたちは、二組といっしょになりましたが、はげしい道をとつて、近道をいきました。ぼくたちが五〇mぐらい、いくと二組がきました。「ぼくたちは、ジャングルを行く、たんけんたいのようだね」とみんなでいきました。

こんどは、海のことです。ぼくたちは、ずいぶん長い道があるいていると、犬が、ついてきました。ぼくは、うるしの木をさわってしまいました。魚がよろこびそうな海だとおもいました。ゲームをやったことも、いまはおもいです。

道のサインは、とてもやくにたちました。やっぱり、キャンプは、たのしいおもいです。

## ジャンボリーだより

書記 内藤 正樹

八月三日午前五時三〇分、靈南坂教会に指導者四名を含めて合計三二名のスカウトが岡山県勝田郡日本原で行われる第四回日本ジャンボリーに出発する為に集合。五時四〇分バスに荷物を積み終つて、六時四五分、父兄やその他の人達一九名に見送られて全員元気に、岡山めざして、出発した。岡山まで行く道順は小田原のドライブインで東京連盟所屬の各団と合流しておよそ八〇台ちかくのバスをつらねて、沼津千本松原(一一・五五)——静岡(一四・二六)——天竜川を通過(一六・〇〇)——浜名湖(一七・四〇)——岡崎(一九・四八)——名古屋(二一・〇〇)——大津(二三・三一)——明石(四日二・一〇)——備前長船(五・一四)——岡山市総合運動場(朝食)(七・四〇)——津山(一〇・一三)——日本原に午前一〇時四分に到着し、キャンプサイトに一〇時二五分に着き、東京から延々と二八時間のバス旅行を、おえて、夜、十分熟睡できなかつた体が、キャンプ地に着いて、燃えるように元氣を取り戻した感じだった。しかし、我々のキャンプサイトは、全くひどく、手のほどこしよ

うもないような場所だった。草木のたけは、一m前後に成長して、荖は草とは思えないほどの太さがあり、土地は、幾重にも波打っていて、七晩もこの上で寝なければならぬかと思うと、東京で、たたみやベツトでゆっくり寝ている人が、うらやましくさえ思えた。四日、五日と設営して、ジャンボリーに出発して三回目の夜になる五日の晩は、ジャンボリーの開会式が開かれ、設営の為にくたくたに疲れた体を、キャンプサイトから、三〇分位、足を引きずるようにして歩いて、開会式場に着いた。開会式が行われている最中は、半分見ながら、半分ボヤットして過した。開会式が終つた後、キャンプサイトに戻つてくると、やっとジャンボリーが始まつた、という安心感からどうか、わからないが、このキャンプサイトもあまり見捨てたものではないと思つた。翌日六日(土)は午前中は、設営の仕上をし、午後からは、楽しい各班独自のプログラムにより活動した。夜は、団全体ミーティングを開き、東京の空では見られないような澄んだ星をジツクリ眺めながら、声をはりあげて歌つて楽しい夜を過した。七日(日)は、キャンプ中最も、辛い日であった。体がだいたい意志通りに動かなくなつ

ているところで、午前中は、日曜礼拝と、それに続いて、プロテスタントスカウトとカソリックスカウトの信仰の一致のために折り合うという、エキユメニカル・ミーティング(四団は礼拝後これに参加せずに帰った。)が行われた。午後は、皇太子御夫妻を招いた。ジャンボリー行事の大行進が、気温セッシン四〇度を越えている炎天下で行われた。そして、夜は、これ又、ジャンボリー行事の一つ、大営火が、キャンプ地から三〇分歩いて、いきつかないような、遠い場所で行われた。このように予定でも、かなりハードだった上に、さらに都合悪かつたのは、東京地区全体が断水になつたことだ。これは、体のまいつているスカウトにとつて大打撃を受けた。この日の食当は、キャンプサイトと給水車との間を何遍も往復して実に大変だった。しかし、この日ただ一つ四団スカウトとして楽しいことがあつた。それは東京四団ガールスカウトのリーダー三人が東京から両手にいっぱい差入れを持って来てくれたことだ。このキャンプに入つてから、果物にかなり御無沙汰していたところに、いっぺんにたくさん果物が手に入ったものだから、思わず笑顔になるのも無理はない。この時のキャンプサ

イト内に、いくつも顔がほころびているのが見えたのがその日のリーダー間の唯一のなぐさめになった。また訪問してくれた人達に、我々のキャンプ生活の一番楽しいところを見せてあげられなかったことや、おいしい食事を、じっくり味わってもらえなかったのが残念だった。八日(月)は昨日のハードだった日とは、ガラッと変わって、朝から瀬戸内海方面へ、団をあげてのバスピクニックの日である。朝七時三七分、昨日のハードワークに体をこわした二人のスカウトと、一人のリーダーとキャンプサイトをの守衛兼看護人として、リーダー一人を残して全員バスで岡山後楽園に向って出発した。後楽園——波川海岸で水浴をし——鷺羽山——倉敷教会へと行き、そこで浴場に行き、六日間のよごれをきれいさっぱり、湯で流して、倉敷教会の三並さん宅で休息させてもらった。キャンプが終わった後で聞いたところによると、キャンプ中一番印象に残った場所がここであるようだ。一八時四七分倉敷を後にして、キャンプ地へ向った。九日(火)は、ジャンボリー最後の日である。今夜七時より閉会式が行われる、午前、午後は比較的小ペースで撤営を行った。午後六時に必要がなくなった

本部備品の撤営完了。各班の備品整理は、閉会式終了後行うことになった。閉会式には四団から三名の者が外国旗の旗手として、出かけていった。いつも閉会式に感じるこゝろだが、今度のジャンボリーほど、一番強くまたはっきりと、今まで過してきた六日間の苦しかったことや、楽しかったことが、閉会式の式典が進んで行くにつれて、目に浮んできて、今夜が最後かと思うと、なにか心寂しく、ものたりないような気がした。一〇日(水)、今日はいよいよ東京に向って出発する日だ。午前四時全員起床して、各班、各個人の荷物をまとめ、バックをし、午前七時無事、撤営が完全に終り、九時に団閉会式を行って、午前一時〇七分、いろいろな想い出を心に刻み込んだ日本原を後に、往きに来た道を逆にたどって一路東京へと向って出発した。備前長船(一四・一四)——明石通過(一八・二四)——大津(二〇・二五)——岡崎(二四・四五)——浜松(二二・二三)——静岡(五〇・〇三)——沼津千本松原(七・五五)——小田原(一一・二二)東連の梯団編成解散——靈南坂教会午後一時二七分に九日ぶりに戻った。キャンプ中にリーダーもスカウトも幾人か病気や、負傷をしたにもかかわ

らず、教会に着いたときには全員出発したときのように元気に日やけた顔から、白い歯を出して、長い辛い、キャンプ生活を成し遂げたというふうに、とくいな顔をしていた。午後二時、美藤先生の祈禱を持って、第四回日本ジャンボリー派遣団が解散になった。

今回のジャンボリーを全般に眺めてみると、いつものキャンプと違って食料事情が非常に良かったことと、長時間バスにゆられたのにもかかわらず、一人も酔った人が出なかったことは、ほめてもいいと思う。またリーダーとスカウト間の連絡不徹底のため、各スカウト個人の技能が、ジャンボリー中、フルに発揮できなかったのが残念だった。今度五年後の世界ジャンボリーには四団の伝統を生かして、より一層スカウトクラフトを磨き上げて、実力を、フルに出し尽くせるような状態で参加できるように務めよう。

(青年隊々員)

## ジャンボリ！雑感

年長隊 金 森 宗登夫

東京からじっとしていること二八時間あまり、飛行機ならアメリカへ行っておつりがたくさんくる。こう見ると日本も広いものだ。ジャンボリーの反省第一号——少年サンデー——たくさん持ってくればよかった、などとひまなものだからこんなくたらないことばかり考え続けた。毎度同じような弁当にいいかげん飽きたころ、やっと日本原に着く。ちょっととした凱旋気分を味わう歓迎を受ける。うきうきしていたら誰かが「この町に金がいくら落ちるのかな」なんて言ったのでちょっとつまんなくなつた。あんまりイカさないゲートを通って会場着。道の両側の草にかかっていた白い殺虫剤がナンセンス（おかげで虫には苦勞しなかつたけれど）。ところどころにあるベニヤ張りの立派な建物ばかり目につく。ま

わりの景色はそれほど印象的ではなかつた。そんなことより設営だ。こうして約一週間のキャンプ生活が始まった。

開会式、式典の会場まで炎天下歩いて、着いてからも待たされた。なにしろ暑く、ヘリコプターの巻き起す風がとてもうれしく感じたほどだった。ものすごい砂ぼこり

の中で大行進。なぜ病人を出してまでやらなければならぬのか、すごく疑問に思つた。大昔火はちょっとしか見られなかつたし、よかつたのは閉会式ぐらい。花火がきれいだったとか、トーチがよかつたなどというけど、やはり暑くなかつたことが一番うれしかつた。

他にいろいろ事件があつたが紙面の関係で省略。やっと帰りのバスに乗車。往路に感じた退屈などはまったく感じない。ただ風が入ってきてじっとしていられることが、なによりもうれしかつた。

ここまで読むと、ちっとも面白くなかつたようだが、そんなことはない。瀬戸内海ど泳ぐのは初めてだったし、あんなにうまい桃は食べたことがない。とにかくとってもいい経験になつたし、きつとよい思い出となることだろう。

### 第四回日本ジャンボリ

少年隊フォックス班 堀 内 健

八月三日午前五時半、自宅を出たとたん

にぼくの心の日本ジャンボリは始つた。僕の心はおどる、胸をはって教会に向つた。いつもは何にも感じない教会だが今日はぼくに向つて、いやみん

ているようだ。全員集合の合図とともに僕は班員に向つて言った「がんばって行こう」と、隊長などの話も終りバスに荷物をつんだ。バスに乗って見送りの人に手をふつた、これから岡山県日本原に向つて長い旅が続く、バスの中はみんなの喜びであふれているようだ、外の景色を見ている胸がワクワクしてくる。いつのまにかねむってしまった、目がさめたかと思つたまた眠ってしまった、そんなことを続けているうちに浜松を過ぎ、名古屋、大阪、神戸、岡山も過ぎ、めざす日本原についたのは四日の昼だった。すばらしいアーチをくぐってキャンプサイトについた。見渡すかぎりテント、テント、テントだ、ぼくもはりきつてサイトにいった、ところがそのサイトは草ぼうぼう、ぼく遠はかまを持ち、おのを持ち、スコップを持って草を切つて行つた、手はまめだらけ、その夜はぐっすり眠つた。さあよいよ二日目、朝おきるのはつらかつた。午後から開会式が始まつた。とてもすばらしかつた。日本原に集まつた三万人のスカウト、どの顔を見てもうれしそうだ。三日目、四日目はサイトの整理、設営などで目がまわるほどいそがしかつた。さていよいよ五日目、この日は東京から皇太子御

夫がいらっしやった。またガールスカウ

トの方も訪問に来てくれた、とても暑くあとから聞いたことには最高気温だったらしい。大行進の会場にいったら急に気持ちが悪くなった。しかしここでくじけてはいけな  
ないと思つた。大行進も終り、大営火が始まった、とてもきれいだ、もつと見たかつた。しかし明日のバスビクもあることだし帰ることにした。さてバスビクの日、瀬戸内海へ向つた、海を見た、急に涼しい感じがした。倉敷に行つて倉敷教会を見た。とてもすばらしく美しい建物だつた。またその夜の御飯がよかつた。ジャンボリーに来て、あんなものをたべられるとは思つても見なかつた。帰りのバスではぐっすり寝た。さて今日はジャンボリー最後の日、つまり閉会式がある。みんなの顔はなごりおしさとさびしさでいっぱいだつた。花火がとてもきれいだつた。

ぼくはこの花火を見てこんなことを考えた。

暗い空いっぱいにはパアッと広がる花火

暗い空を明るくする

まるで真昼のごとく

空へ舞い上がって行って

ぼくらをてらす

三万人のスカウトの目が、心が

一つになる

三万人が、青い瞳の外人が

黒い肌の黒人が、ぼく達日本人が

世界にかへはない

みんなで手をとりあつて行こうとこの時ほど思つたことはない。夜もふけた。シーンとしてこの日本原に僕達の声がかたまする。この感激、初めてだ。この感激を心の金庫にしまつておこう。

閉会式も終り、みんな手をふつてわかれていった。いよいよ東京へ帰る日、朝からとてもいそがしかつた。アーチまで荷物を運んで何往復もした。どんだんこの日本原を去つて行くスカウト、スカウト、スカウト、僕は道路ぎわに立つて敬礼をしていた。今度は僕達が敬礼していく番だ。アーチの所に立つているスカウトにも、その横にある桃太郎にも敬礼した。東京をめざしてバスは走る。立いても笑つてももう第四回日本ジャンボリーは終つた。この岡山県日本原の地に感謝のみを残して、思えば苦しいこともあつた。楽しいこともあつた。このジャンボリーは僕にとって、ただすばらしいのひとことで終る。

キャンプ

少年隊々長 関 口 敦 夫

スカウトは自然の中で成長すると言う言葉は今迄に何回となく聞いて、一体それはどういふ事なのであろうと思つていろうちに、隊長に任命され教育するという重要な任務を、はたしてまんどく果すことが出来るかと、不安になつた時もありましたが、一番最初の言葉をよく考えて見ると、すべて手取り、足取り教 えるのではなくリーダーの大切な任務は技能と心の準備をさせ、自然の中につれて行きそこで生活をさせるということだけでも普段の集會よりも、もっと成長するのであるということをおぼるげながら得たようです。

第一回目としては千葉県の富津海岸でリーダー四名、隊付二名、スカウト一五名のメンバーで二泊三日のキャンプを行いました。リーダー達は、目を輝かせスカウト一人一人に目をそそぎました。

クマ班は、班長の今井君が欠席の為、宇田川君が小学校六年生の初級ばかりのスカウトの指導に一生懸命。なにせ班員が初級ばかりなので斧やナイフが使えません。一人二役も三役もして大奮闘、とうとう最後の日には目がはれるほどでした。

ライオン班は班長、次長をぬかしてはほとんど小さいスカウトで柏木君も小松(正)君もクマ班にまけず大奮闘。柏木班長の指導の下で水くみや、火起しに走り回っていました。

タカ班は遠藤君一人の為にシカ班に入り、シカ班は班長、次長が欠席の為、小池君が班長代理になってがんばり全員中学一年で二級という良い条件ではありましたが、最優秀班をもらい小池君の班長代理は実を結びました。プログラムは、水泳、ナイトゲーム、スイカ割り、キャンプファイヤー等が組入れ、リーダーも一緒に楽しんでしまいました。こういう次第でキャンプは終わりましたが、参加人員が少なかったのは残念です。駭キャンプはあくまでも第一でありますので、これからのキャンプは何をさしおいても参加してほしいものと願っております。

## カブ舎 営

年少隊長 万石俊夫

カブスカウトの舎営は七月二日から二四日まで伊東のユースホステルでおこないました。時は七月二日朝六時三〇分、スカウト、リーダー、奉仕ローパー、一同ね

むそりな目で集合、スカウト三三名、リーダー一七名で、総勢は五〇名、一同七時三六分発の電車に乗って元気に出発、空は青く澄わたり行手には山があり、海がある大自然を目ざして元気に歌をうたいながらと

いいたいのですが一同コックリ、コックリしている間にもう熱海を過ぎ、伊東の駅に着いてしまいました。そこからは東海バスにのり、伊東のユースホステルまではもうちょっと。広いゴルフコースのすぐそば、小室山の山すそにユースホステルがありました。すぐにお昼のお弁当。この時になつてやっとみんな目をさましたらしくニコニコとお母様の作って下さったお弁当をおいしそうにいただいています。それから開会式、ホステルのベアレントにあいさつをしていただいでから組別に部屋ぎめ、荷物の整理とかざりつけをしている内に夕食の時間になり、この日は早く寝ました。

二日目朝六時に起床、そのまま屋上で体操、そのあとで点検、朝礼、と朝の一番いそがしい時です。そのあと朝食をとり、お弁当を持って組のピクニックです。小室山の頂上や中腹でそれぞれ箱庭の材料を取ってきて後の組集会で箱庭作りです。午睡をしてオヤツを食べ、五時に夕食をした。そ

のあと外に出てゲームをし、さる、キャンプファイヤーです。組毎の劇や歌、楽しいゲーム、だんだんファイヤーの火がきえてきて空には星がいっぱい。本当に舎営にきてよかったなあと思いつつもの通り、こんどした。よく日、朝はいつもの通り、こんど

は海へ隊のピクニックです、暑いなかを一時間歩いて海岸。そこで歌の練習やゲームをし、今度は追跡サインをしてホステルへ帰ります。ハアハアいいながら山道を登ってホステルへ帰営しシャワーを浴び、それから午睡の時間です。夜はキャンプファイヤー。いつのまにかもう九時、東京へ帰る夢をみながらスカウトは寝ています。二四日は東京へ帰る日、朝礼のうちに日曜礼拝をして組の部屋の掃除やホステルの囲りの掃除をして、一二時半にホステルを出発、伊東の駅でおみやげを買い、二時一分の電車で一路父兄のまつ東京へ帰りました。四時五七分東京駅着。病人がでしたが無事に何事もなく東京に帰れたのは、色々奉仕して下さった父兄やローパーの人たちのお蔭で本当に心から感謝しております。

## II 行 事 II

年少隊舎管 七月二日～二四日（伊東ユースホステル）スカウト三四名、リーダー一六名。杉原副団委員長、高島、萩原、里見団委員、ご父兄の三島さん、諸角さん、三武さんが参加。

ジャンボリー 八月三日～一日（岡山県日本原にて五日～九日まで開催）参加スカウト及びリーダー三三名。水不足と暑さに悩まされたが無事終了。

少年隊キャンプ 八月二三日～二五日（千葉県富津海岸）野営技術訓練と共に楽しむキャンプを目的とした。スカウト一五名、リーダー四名、杉原副団委員長が参加。

月の輪キャンプ 八月二七日～二九日（三隣国際基督教大学構内）スカウト七名、リーダー三名で実施。

### II 指導者研修会 II

八月一八日  
し二〇日（軽井沢）かねてからの念願であったB・S、G・S合同のリーダー研修会が、飯先生、美藤先生をおむかえてして開かれた。一回目なので親睦に重点をおき相互理解を深めた。B・Sリーダー一〇名、G・Sリーダー一名参加。

合同ジャンプファイヤー 九月四日（靈

南坂教会）あいにくと途中から雨に

たられたが、各隊趣向をこらして、この夏最後の行事を楽しんだ。父兄をまじえて約二五〇名が参加。

### II 指導者円卓会 II

九月二二日  
赤坂乃木神社で第一地区の円卓会はジャンプファイヤーのプログラムを実施されましたが、あいにくの雨で室内に変更されましたが各隊の出し物などで楽しいひとときを過しました。杉原、関口、大内、高橋出席。

### II 父兄総会と懇談会 II

九月二四日（国立教育会館）夏の各隊行事報告とリーダーの慰労をかねて開かれた。夕食を共にしてジャンボリーの八ミリやスライドを見ながら懇談。出席者 団委員、父兄四名、リーダー一三名。

### II 団委員会 II

九月一七日（土）  
出席者 田中、杉原、美藤、飯田、平林、手塚、石川、中村、三島、須田、沢田、竜、宇田川、今井、菅谷、河辺、里見  
一、夏の行事報告  
一、ジャンボリー会計報告（中間）

予定参加人員が、最終的に減った為に出た赤字をどのようにして、うめるかの討議の結果、申し込んで不参加の

スカウトには、既に払ってしまった分  
担金二、三〇〇円十バス代五、五〇〇  
円を支払っていただくことに決定。

一、父兄総会と懇談会の件

### II 二十周年記念行事委員会 II

指導者の企画委員が決定。日取り、予算等がくまれました。

日 時 昭和四二年四月二九日

場 所 靈南坂教会

予算総計は三〇万円、募金計画は、一家庭一口千円とし、O・B、O・Gにも呼びかける。不足分は冬季スケート

バザーで補なう。

企画委員（B・S側）責任者 杉原、総務

内藤、式典 関口、記念品 大浜、

二〇年誌 大内、パーティー 万石、展示

渡辺、バスビクニック 加藤、河内

### 人 専 往 来

田中団委員長帰国 用務を終られた先生は、米国、ヨーロッパ、香港を経由して九月四日に無事に帰国されました。

### 育成会員募集について

九月二四日の父兄総会にてご説明をいたし、プリントを配布いたしました育成会員募集の件、東京第四団の財政を確立するためにスカウトのご父兄以外に育成会員を募集することになりました。つきましては、皆様の親戚やお知り合いの方でスカウト活動を理解していただけるような方には是非おすすめていただきたいと思います。募集要項については、プリントができておりますので、お申越しのうえご協力いただきたくお願い申し上げます。

### 第十二回世界ジャンボリー募集要項

- 一、期間 昭和四二年七月二八日～八月二八日
- 一、会場 米国アイダホ州、フアラガット州立公園および米国西部諸都市の親善訪問
- 一、費用 三十二、三万円（個人負担）
- 一、資格 満一四才以上で、一級以上で二年間以上、継続登録を完了したスカウト
- 一、申込 第四団としては一〇月末日までとする。所属する隊長まで文書をもって申込みをする。

### 名簿訂正と追加について

最近地名変更などで住所の変わった方やすでにお手許にある名簿で間違いがあったり、記載もれの箇所のある方は一〇月二九日付までに文書をもってお知らせ下さい。一月の「スマイル」に訂正版を掲載いたします。

### II 行事予定 II

- 一、教会バザー開催 一月五日(土)午前
- 一〇時より恒例のバザーが実施される予定です、今年のスカウトの売り上げは、すべて二〇周年のために使われますので、ご父兄のご協力をお願いいたします。すでにエプロンなどをお願いしてありますが、よろしくお願いいたします。
- 一、共同募金に奉仕  
年少隊は一〇月一日、いつもの通り、数寄屋橋附近で共同募金に協力いたします。皆さんもご協力下さい。
- 一、ガールスカウトラリー開催  
ガールスカウト世界会議が九月二八日より開催されており、そのプログラムの一環として日本連盟主催のガールスカウトラリーに四団のボーイスカウトがお手伝いをしますが、交通整理を中心とした奉仕になる見込みです。

### プロフィール

田中委員長

いつみてもニコニコと、名実共に四団の大黒柱の田中先生。ホーリョリョクがあってやさしそうというのが皆の評判です。奥様と二人のお嬢様も皆四団のスカウトに関係のあるスカウト一家。お仕事は早稲田大工学部部の鉱山学の教授です。鉱山なんてかたーいお仕事のわりには、丸みがありますね。一九一九年生まれといいますが今年で四七才。教会の下の谷町でオギヤアと生まれてからこれまで、途中二年間だけアメリカ留学のため家をはなれただけで、ずっと同じところに住んでいらっしやるというぬしみたいな存在。家の中には明治の頃からの本が山のようにあります。趣味はもっぱら貯蓄と読書。お金は一〇円計算があわなくとも何時間も考えていらっしやるとか、ただためるのだけがお好きだそうですから、何かの時のために先生のお家だけは、おほえておいた方が良くと思いますよ。とにかく全てのことを、きちんとするのがモットーのようです。先日は欧州での会議を機にご夫妻で二ヶ月間世界旅行をなさり、いよいよ見聞豊かな、たよりのある団委員長です。



## トピックス

一、印刷機（輪転機）購入  
かねてより指導者から要望のあった輪転式印刷機をガールスカウトと折半して費用を分担し購入。スカウトハウスに設置される。取り扱いについては指導を受けた者に限る。

一、ジャンポリーにご奉仕  
今田青年隊長は日本連盟行事部員と、杉原年長隊長は東京連盟行事部長、大浜年長隊副長は第一地区行事部長としてジャンポリー期間中ご奉仕される。

一、日本連盟運営委員に  
今田青年隊長は、昭和四一年度の編集、需品、組織拡張委員に、杉原年長隊長は、編集、進歩、組織拡張の各委員の委嘱をうけられる。団委員（元少年隊長）飯田貞雄氏は、編集、音楽、組織拡張の委員を委嘱されております。

一、安積さん（元年長隊長）よりお便り  
現在、国連で活躍されている安積さんよりみなさん宛にお便りがとどきました。次号に掲載いたします。諸君もふるって返事をだして下さい。

一、教会学校大会に奉仕  
毎年秋の教育週間に行われている東京

の教会学校大会に今年も奉仕、九月二五日、青山学院P・S講堂での大会にガールスカウトの、上級、レンジャーと共に、シニアローバーが奉仕、合わせて二九名が奉仕。

一、日赤救急法講習会開かれる  
上級スカウトの主催による日赤救急法講習会が霊南坂教会で九月二六日より実施されており、ローバー、シニアが参加しています。一〇月四日にテスト、何人合格するか、奮闘を期待。

## 編集後記

世の中は複雑だからね・・・、本当に思うようにはなかないかないものです。スマイルもその例にもれず意気だけは盛んですが、まだまだです。現在のところ団の動向を中心としていますが、段々と内容も充実してゆきたいと思っています。お気付きのことは編集委員までお知らせ下さい。

委員 国谷さん（年少隊の国谷君のお母さん）でお医者さんです。）

菅谷さん（年少隊菅谷君のお母さん）で三田の慶応大学のすぐそばに住んでおられます。）

今井さん（年少隊今井君のお母さん）でいつも熱心にスカウトの教育について考えておられます。）

遠山さん（元年少隊リーダーで、現在のところお仕事が忙しくて顔を見せませんが、力が持っています）旧デンマザー一同（現役を退いてからますます元気で、趣味をいかながらの活躍です。これからのスマイルの原動力です。）



編集人 杉原記

\*\*\*\*\*  
\* 発行日 昭和四十一年十月一日 \*  
\* 発行人 田 中 正 男 \*  
\* 編集人 杉 原 正 \*  
\* 発行所 港区赤坂靈南坂町十四 \*  
\* 日本ボイスカウト東京第四団 \*  
\*\*\*\*\*

スマイル 第七六号